

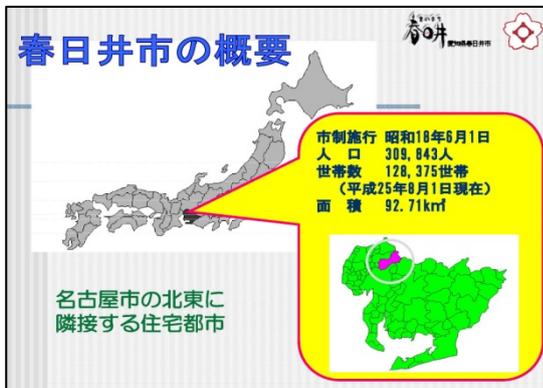
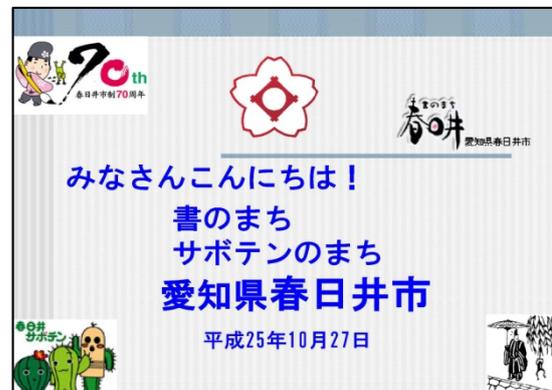
春日井市役所（愛知県）

皆様、こんにちは。私たちは、自分たちでボランティア活動をしているわけではございません。しかしそうした活動をされている皆様と一緒にパトロールや防犯診断をやらせていただいておりますし、またそういう方々の下支え、あるいは事務局を担当する市民安全課から参りました。よろしくお願いいたします。



地域の紹介

それでは春日井市の安全対策及び地域のボランティア活動について紹介させていただきます。当市は人口約31万人。愛知県の北西部に位置する住宅都市であり、名古屋市に隣接していることもあって交通環境はJR中央線、名鉄小牧線、愛知環状鉄道のほか、東名高速道路、中央自動車道、東名阪自動車道、さらには国道19号線、155号線、302号線などが整備され、大変便利なところです。また来年からはご当地ナンバー「春日井」が導入されることも決まっています。



春日井市の取組

このような多くの人口と交通の利便性が要因の一つとなって犯罪が多発したため、平成5年に「自分たちのまちは自分たちで守る」という防犯意識の醸成と、市民主導型の安全ネットワークによる犯罪や災害に強い都市基盤の整備を目的として、「春日井市安全なまちづくり協議会」を設立しました。この協議会は5つの部会、協議会推進員、ポニター、女性フォーラム及び事務局で構成されています。会長は当市の市長が務めます。部会は市内105の団体で組織され、安全都市研究部会、安全活動推進部会、啓発活動推進部会、青少年問題調整部会、暴力追放推進部会の5つに分かれていて、それぞれ

活動を行っています。

春日井市安全なまちづくり協議会 について



春日井市安全なまちづくり協議会の設立

【背景】

- 人口増加、都市化傾向
名古屋市のベッドタウン
- 近隣不干渉、地元意識の希薄化
- コミュニティの希薄化による
犯罪・災害への脆弱化

春日井市安全なまちづくり協議会の設立

『市民生活の「安全・安心」を守るのは
自治体の最たる責務である』

↓

春日井市安全なまちづくり協議会の設立

協議会の概要

- ・ 設立・・・平成5年6月
- ・ 目的・・・行政と市民が一体となった
「犯罪や災害に強い都市基盤の整備」
心のふれあいと連帯の中での
「安全ネットワークづくり」
- ・ 会員・・・市内105団体
- ・ 特徴・・・市民参加型事業だけでなく
協働型・市民主導型事業を推進

協議会活動の基本理念

- 『自分たちのまちは自分たちで守る』
という市民一人ひとりの意識の醸成
- 市民参加による各種施策の実施と
地域の安全リーダーの育成

協議会スローガン
春日井が 安全 安心 発信地

協議会の組織①

5 部会 (105 団体) <ul style="list-style-type: none">○安全都市研究会 (17)○安全活動推進部会 (25)○啓発活動推進部会 (13)○青少年問題調整部会 (30)○暴力追放推進部会 (20)	安全なまちづくり協議会事務局	ボランティア 安全・安心 まちづくりモニター 3ブロック 364名
協議会推進員 (38小学校区190名)		女性フォーラム 実行委員会 15名

協議会の組織②

- 主な協議会役員
会長 春日井市長
副会長 市議会議長、警察署長、商工会議所会頭、
農業協同組合長、区長町内会長連合会長
- 協議会事務局
協議会事務局長 総務部長
事務局 総務部市民安全課
- 協議会 5部会
(安全都市研究会・安全活動推進部会・啓発活動推進部会・青少年
問題調整部会・暴力追放推進部会)
市の部・課を横断横断的に集めた職員51名で運営

春日井市安全なまちづくり協議会 5部会、推進員の活動について





安全都市研究部会 (17団体)

◆ 目的
都市環境と安全についての調査・研究

◆ 活動

- H11 **ひったくり防止**「防犯ネット普及」
- H12～14 **公園の安全チェック**
テーマ「子どもにとっての安全な都市空間」
- H15～16 **情報の共有化**「犯罪情報・安全情報の相互共有」
- H17～18 **学校・子どもの安全**
- H19 安全なまちづくり条例に関する調査研究
- H21 防犯に関する市民ニーズの調査(アンケート)実施
- H23 防犯活動事例集作成
- H24 防犯カメラによる犯罪抑止施策の調査・研究

安全都市研究部会は、市の安全に関するシンクタンク的な位置付けであり、これまでも安全なまちづくり条例に関する調査などを行ってきましたが、昨年は防犯カメラの有用性と問題点に関する研究を行い、本年度の防犯カメラ設置補助事業につながりました。

安全活動推進部は、地域住民と市の職員が一緒になって町内を点検して回り、危険箇所や要注意箇所を把握して改善する防犯診断を行っています。この防犯診断は日中の明るい時間帯に行う「コミュニティ防犯

診断」と、夜間の暗い時間帯に行う「くらがり診断」の2種類がありますが、どちらもその地域に居住する住民が自分たちの目で、自分たちの住んでいるまちを歩いて直接点検することになるため、地域の安全の再確認あるいはコミュニティ再生のきっかけにもなります。



安全活動推進部会 (25団体)

◆ 目的
地域における安全活動の推進

◆ 活動

- H6 ～ 「くらがり診断」の実施(市内15中学校区)
- H16～ 「安全・安心まちづくり診断」を実施
 - ・コミュニティ防犯診断
 - ・くらがり診断



安全・安心まちづくり診断 (安全活動推進部会)

I **コミュニティ防犯診断**
地域の**犯罪につながる危険要因の解消**

II **くらがり診断**
地域の**くらがり解消** (路上犯罪・交通事故の防止)

※ **共通の目的**
地域住民の参加による**地域の再確認とコミュニティ再生**のきっかけづくり



コミュニティ防犯診断

地域・公園の不安要因・危険要因を解消するため地域住民とともに点検



これもコミュニティ再生のきっかけづくり



くらがり診断

地域住民、警察官とともに「くらがり」の点検



地域コミュニティ再生のきっかけづくり

啓発活動推進部会は、市民の皆さんに防犯あるいは防災について幅広い知識を習得していただくため、著明な大学教授や有識者を講師に迎えて「春日井安全アカデミー」という市民大学を開校しています。後ほど詳しく説明しますが、当市の独自のボランティア組織であるポニターとなるためには、このアカデミーを受講することが必須条件となっているため、ポニターは全員がこのアカデミーの卒業生です。



啓発活動推進部会 (13団体)

◆ 目的
安全意識の普及・啓発

◆ 活動

- 「春日井安全アカデミー」の開校
安全学部
「防災コース」「生活安全コース」を担当
- 「安全なまちづくり協議会だより」の発行

春日井市教育委員会
春日井市立総合学習センター

春日井安全アカデミー

(啓発活動推進部会)

- 開 校 平成7年
- 目 的 防災・防犯ボランティアの啓発・育成
- 卒業生 2,381名 (H7～H24)
- 課程等 (2課程4コース 1コース7講座)
 - 安全学部 基礎教養課程
生活安全・防災各コース (定員各50名)
 - 安全学部 専門課程
生活安全・防災各コース (定員各50名)

春日井市教育委員会
春日井市立総合学習センター

春日井安全アカデミー“講義風景”



専門課程
防災コース



基礎教養課程
生活安全コース

青少年問題調整部会は、児童や青少年問題に取り組む関係機関・団体と連携して活動を行っていますが、その中で最も特徴的なものは、市内に38ある小学校のすべての新1年生に対して防犯寸劇を行う「こども防犯教室」と、夏休み中に小学校高学年を対象に防犯あるいは防災教室を行う「子ども安全アカデミー」です。特に小学1年生を対象にしている「こども防犯教室」は活動を始めてからすでに7年が経過していますので、市内の小学生は全員がこの防犯教室を体験したことになります。

春日井市教育委員会
春日井市立総合学習センター

青少年問題調整部会 (30団体)

- ◆ 目的
青少年問題に取り組む関係機関・団体との連携活動の推進
- ◆ 活動
 - 青少年の健全育成に関する街頭キャンペーンの実施
 - 「こども防犯教室」
 - 「子ども安全アカデミー」の開校

また「子ども安全アカデミー」では、子供の目線で安全なまちづくりを考えてもらいますが、ここでの研究結果や作成した安全マップなどはそのまま夏休みの研究成果として学校へ提出して使用することができます。

春日井市教育委員会
春日井市立総合学習センター

こども防犯教室

〈小学1年生を対象とした安全意識啓発活動〉
(青少年問題調整部会)

- ◆ 平成19年度より実施
- ◆ 市内全38小学校の1年生児童を対象
- ◆ 講師はポニター
- ◆ 総合学習の時間を利用し、防犯に関する寸劇や児童の意識調査を行い、安全意識啓発を図る

春日井市教育委員会
春日井市立総合学習センター

こども防犯教室



あんちゃん・しんくんのおやくそく



総合学習の時間を利用し、安全を学ぶ。
寸劇への児童の参加

春日井市教育委員会
春日井市立総合学習センター

子ども安全アカデミー

〈子どもの安全に向けた新たな取り組み〉
(青少年問題調整部会)

- ◆ 平成24年7月25日開校
- ◆ 参加者 36名 (保護者含む)
- ◆ 講師はポニター
- ◆ 防災、防犯両面で「自分の身は自分で守る」という意識の醸成を図るとともに、子ども自身が安全なまちづくりに関わることができるよう、意識啓発を図ることを目的として開校

春日井市教育委員会
春日井市立総合学習センター

子ども安全アカデミー

- これからの安全なまちづくりは子どもが持つ豊かな創造力を生かすことが大切
- 子どもの創造力を引き出すワークショップ「安全なまちづくりで自分たちができること」





暴力追放推進部会は、暴力追放セミナーへ参加したり、あるいは警察本部や財団法人暴力追放愛知県民会議の協力を得て、不当要求防止責任者講習会を実施します。

次に協議会推進員について説明します。推進員は市内の全小学校区から各5名ずつ選出された区長や町内会長、民生委員、PTAなど合計190名の市民で構成され、協議会活動への参加や地域の安全に関する情報提供等をお願いしています。



暴力追放推進部会 (20団体)

- ◆ 目的
暴力追放運動の推進
- ◆ 活動
 - 不当要求防止責任者講習会の開催(H6～)
 - 暴力追放セミナーの参加



暴力追放推進部会

春日井市内の事業所を対象とした
不当要求防止責任者講習会 (毎年1回開催)

講師 財団法人暴力追放愛知県民会議
愛知県警察本部

主催 春日井市安全なまちづくり協議会 暴力追放推進部会





このような安全なまちづくりに関する当協議会の活動が評価され、平成18年には安全・安心なまちづくり関係功労者として、総理官邸において内閣総理大臣表彰を受けました。



協議会推進員 (協議会会長委嘱)

- ◆ 構成 各小学校区 **5名**
市内**38**小学校区 **合計190名**
(内訳)
区長・町内会長連合会 **2名**
民生委員協議会、老人クラブ、
小中学校PTA連絡協議会 **各1名**
- ◆ 活動内容
 - ・協議会活動への参加
 - ・地域の安全に関する情報提供・提言



協議会の活動 《表彰》

平成18年
安全・安心なまちづくり関係功労者
内閣総理大臣表彰

表彰式 平成18年10月11日 総理大臣官邸にて



続いて市民のボランティア活動について説明します。まずポニターについて説明します。正式名称は「安全・安心まちづくりポニター連絡会」と言いますが、このポニターという言葉はボランティアとモニターの造語で春日井市独自のものであり、代表を中心に一致団結して積極的にボランティア活動を行うという、当市のボランティア活動の中核をなす人たちです。



春日井市安全なまちづくり協議会 ボランティア団体の活動について





市民ボランティアの活動

春日井安全アカデミーの卒業生等を中心とした地域安全ボランティア

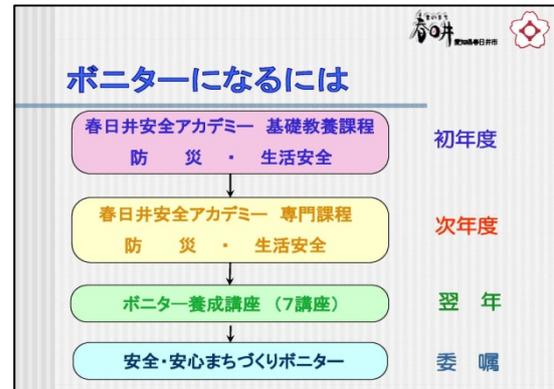
- 安全・安心まちづくりポニター
- 春日井安全・安心まちづくり女性フォーラム実行委員会

ポニターとなるためには、先ほど少し説明したとおり、まず市民大学である春日井市安全アカデミーの基礎教養課程を受講し、翌年、専門教養課程を受講して卒業したのち、さらにポニター養成講座を受講する。これらをすべて修了すると市長から委嘱を受けて晴れてポニターとすることができます。

安全・安心まちづくりポニター

(平成11年から活動 平成25年4月現在 364名が登録)

- 語源
「ボランティア」と「モニター」をあわせた春日井市の造語
- 役割
地域の安全のために活動を行い、市など関係機関に対し提言を行う**地域安全のリーダー**
- ポニターとなるには (次頁チャート図参照)
安全アカデミー基礎教養課程及び専門課程を修了し、**ポニター養成講座(7講座)**を受講
- 活動例
防 災 ~ 総合防災訓練への参加、D I Gの指導
家具転倒防止啓発
生活安全 ~ 児童見守り隊、安・安診断



ポニターになると、おそろいの黄色いジャンパーやポロシャツを与えられ、これを着用して活動することになるため、市民が見ればひと目でポニターだと分かります。ポニターは現在 364 名いますが、義務としてボランティア活動を行うのではなく、「プロジェクト」と呼んでいる数ある活動項目の中から自分のやりたいものを選んでそこに参加し、チームの一員として活動することになります。やりたい活動がたくさんある場合は、多数のプロジェクトに参加することも可能です。

ポニターの地域安全活動

【プロジェクトチームによる活動】

【防災】
総合防災訓練での救出救護デモ訓練
防災拠点訓練等におけるD. I. G指導
水防訓練・地区防災訓練で防災用品展示等
「子ども安全アカデミー」の講師

【防犯】
「安・安診断」による侵入盗対策の啓発
「児童見守り隊」によるパトロールと啓発
「通学路通信簿」による点検

【ミニ研修グループによる活動】
「こども防犯教室」による啓発【防犯】
「コミュ&ニュテ」による啓発【防犯】
「家具転倒防止」による啓発【防災】



プロジェクトの内容は多岐にわたりますが、少し紹介します。市の総合防災訓練時における救出救護デモ訓練、地域に密着した防災拠点訓練、D. I. G (ディグ) と呼ばれる災害図上訓練、小学校高学年を対象とした「子ども安全アカデミー」、各家庭を訪問して防犯診断を行う「安・安診断」、登下校時の児童の安全を守る「児童見守り隊」、通学路の危険箇所を点検してマップにする「通学路通信簿」、新1年生を対象に防犯寸劇を行う「こども防犯教室」、専用の模型を使用して行う「家具転倒防止デモ」などがあります。

このほかにも「コミュ&ニュテ」という名前で高齢者を対象に、自作した紙芝居を使って振り込め詐欺に対する啓発活動を行うグループがありますが、その一人が描く絵は非常にかわいくて心に訴える



ものがあるため、警察本部でもその絵を各種防犯の挿絵やイラストに使用していますし、またその作成風景はテレビの特集で紹介されたほどです。



このようなボニターの活動は内外から高い評価を受けており、平成20年には文部科学省から「学校安全ボランティア活動奨励賞」を受賞しました。



ボニターの活動 《表彰》

平成20年度学校安全ボランティア活動奨励賞
 (文部科学省スポーツ・青少年局)
 一学校安全に関する取り組みを評価され受賞
 表彰式 平成20年11月25日 文部科学省にて

【ボニターの学校安全に関する活動】

- 児童見守り隊
- 通学路通信簿（地域マップ活用）
- 子ども安全アカデミー（青少年問題調整部会事業）
- こども防犯教室（青少年問題調整部会事業）



ボニターの活動 《表彰》

学校安全ボランティア活動奨励賞





表彰を伊藤太市長（左）へ報告する
後藤一明ボニター代表（右）
【平成20年当時】

続いて女性フォーラムについて説明します。正式名称は「春日井市安全・安心女性フォーラム実行委員会」という、アカデミーの卒業生を中心とした女性だけで活動するグループで、現在 15 名で活動しています。

主な活動は、保育園や幼稚園に通う園児に対して連れ去り防止等の寸劇を行う防犯啓発活動。そのほかでは小学校の体育館や子供の家で、連れ去り防止や災害時の行動などを寸劇やクイズを通して実践的に覚えてもらう防犯と防災両方の啓発活動を行っています。

また園児の保育を担当する部署の要請を受けて、経験の浅い保育士に対して新人研修の名目で、園児に見せるものと同じ寸劇を披露するなど、園児だけでなく、園児を保護する立場の者に対しても防犯啓発活動を行っています。

春日井安全・安心 女性フォーラム実行委員会

- 設立 平成10年度
- メンバー アカデミー卒業生を中心とした女性（15名）
- 活動内容 女性や生活者の視点による安全なまちづくりに向けた調査・研究活動
 - ・ H13 市内37小学校区で「安全マップ」を作成（防災・交通・防犯）
 - ・ H14～ 安全マップを活用し総合学習を利用した安全啓発活動を実施
 - ・ H17～ 総合学習において小学生高学年を対象に「安全なまちづくりワークショップ」を導入

女性フォーラム実行委員会の活動

（総合学習における啓発授業）

知らない人に誘われたら

安全なまちってどんなまち

活動効果

このような協議会の活動が功を奏して、春日井市の刑法犯認知件数は、年々減少しています。

次に、協議会以外の団体や活動について説明します。まずJR春日井駅の直近にある防犯ステーションです。正式名称は「JR春日井市駅前防犯ステーション運営協議会」ですが、分かりやすく言うと駅前にある民間交番です。防犯ステーション設立の経緯は、春日井市駅前の環境浄化と市有地の有効活用に、地域住民による交番設置要望が相まって、平成20年に現在の場所に設置されました。

ここで活動するのは、近隣に居住する市民48名ですが、全員が自主的に交番に集まって、来訪者に地理案内を実施したり、駅周辺において各種防犯啓発活動を行うなど、地域のコミュニティーセンターとしても機能しています。この交番は名前を「ふれあい」と言いますが、メンバーの皆さんはまさしく人とのふれあいを重視したきめ細やかな活動を実施しており、年末には春日井警察署と市が合同で実施する年末特別警戒合同出陣式にも参加しています。



春日井駅前防犯ステーション 「ふれあい」

春日井 愛知県春日井市

自主防犯ステーション設立①

【設立経緯】
 平成15年より
 地元住民がJR春日井駅前への交番設置要請
 ↓
 市として補完的な施設を検討

春日井 愛知県春日井市

自主防犯ステーション設立②

地元住民

駅前の
環境浄化

春日井市

駅前の
市有地活用

平成20年度

自主防犯ステーション 設立へ

春日井 愛知県春日井市

防犯ステーション概要①

【設立】 平成20年9月1日
【所在地】 春日井市中央通1丁目95番地
【敷地面積】 約60㎡（建物面積 約23㎡）
 建物は春日井中央ライオンズクラブが地域貢献活動並びに結成30周年記念事業として建設し、市へ寄贈された。
【運営】 春日井駅前防犯ステーション運営協議会

春日井 愛知県春日井市

防犯ステーション概要②

【運営形態】 近隣住民ボランティアスタッフによる自主運営
 ※平成25年4月1日現在 48名
（ボランティア活動保険、愛知県防犯ボランティア活動災害見舞金制度には市より加入）

【開所日時】 月～金曜日（祝日を含む）
 午後1時から午後5時まで
 2名以上が駐在

春日井 愛知県春日井市

防犯ステーション概要③

【愛称】 ふれあい
 春日井駅前防犯ステーション協議会が地域住民から募集し、地域に根をはる活動拠点の意味を込めて決定。



春日井 愛知県春日井市

防犯ステーション活動内容

- 駐在、立ち番
- 来訪者への地理案内
- 防犯啓発活動
- その他の地域安全活動
- コミュニティセンター機能
春日井警察署や市の青パトの立寄所

春日井 愛知県春日井市

防犯ステーション「ふれあい」



開所式



防犯ステーション ふれあい

春日井 愛知県春日井市

防犯ステーション「ふれあい」活動風景

年末特別警戒合同出陣式（市役所1階市民ホール）






続いて、安全対策連絡調整会議です。これは市の安全活動に関与する防犯ボランティア、教育関係者、PTA、警察、市の代表者が年3回、一堂に会し、それぞれ実施している防犯活動を報告し合って、自分たちの活動に役立てる連絡会です。この会合に出席することで、各団体同士の連絡体制が構築されるとともに連携も強化されることとなります。

安全に関わる機関・団体の連携 (安全対策連絡調整会議)

安全対策連絡調整会議

地域の防犯に携わる関係者の連携を図る
(年3回 7、11、3月開催)

- 市内学校関係者 (小・中学校、県立高校、PTA)
- 幼稚園・保育園関係者
- 安全活動推進活動関係者
(ボランティア団体、子ども会、防犯協会連合会、保護司会)
- 春日井警察署
- 春日井市
(学校教育課、子ども政策課、保育課、市民安全課<事務局>)

安全対策連絡調整会議

【会議体の所管】

- 安全対策の情報交換及び連絡調整
- 防犯に係る関係機関との連携強化
- 安全対策の情報発信及び広報活動

【会議内容】

- 市内の犯罪情勢
- 「一斉行動日」の決定
- 各団体での防犯、安全意識啓発活動紹介

安全安心情報ネットワーク について

安全・安心情報ネットワークは、警察や行政が持つ事件や災害、異常気象に関する情報を携帯電話のメール機能を使っていち早く市民に配信して周知を図るシステムです。配信内容は防犯や防災に関するだけでなく、熱中症予防や光化学スモッグ、それに消防情報も含まれます。

地域安全安心情報ネットワークの構築

背景

- 身近な安心安全情報を共有してきたコミュニティが弱体化
- 空き巣やひったくり、子どもをターゲットとした犯罪が増加
- 大規模地震など自然災害による大きな被害が想定

↓

不安感の増大 (情報不足も一因)

↓

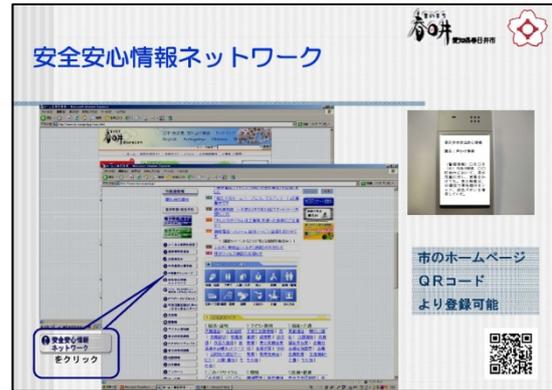
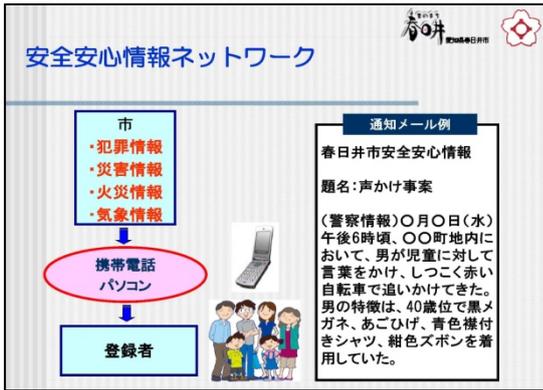
安全情報の共有化が課題

情報配信システム

ホームページ、メール、携帯電話等を活用した
情報共有システムの構築

↓

○ 市が核となり市民・警察・学校・消防が持つそれぞれの情報を共有



最後に市が行う防犯支援事業について説明します。まず地域防犯組織支援事業補助金です。これは新たに防犯組織を立ち上げる町内会や自治会等に対して25万円を限度に物品購入の補助を行う制度です。この制度は、これまでに多くの団体に利用していただいております。

次は防犯カメラ設置事業補助金です。この制度は、地域の町内会や自治会等が防犯カメラを設置する際に50万円を限度に補助金を交付する制度です。この制度は今年度から始めましたが、現時点ですでに予算のほぼ全額を使い切るなど好評です。



安全安心情報ネットワーク

地域防犯組織支援事業補助金

- 空き巣やひったくり、放火などの犯罪が発生
- 犯罪抑止及び地域の防犯力の向上が必須
- 区・町内会・自治会が中心となった団体等による自主的な防犯活動を推進

【補助対象】
パトロールジャンパー、防止、腕章、たすき、警笛、マグネットステッカー、シール、青色回転灯など

【補助金額】
地域世帯数により異なる 5万円～25万円

安全安心情報ネットワーク

防犯カメラ設置補助金

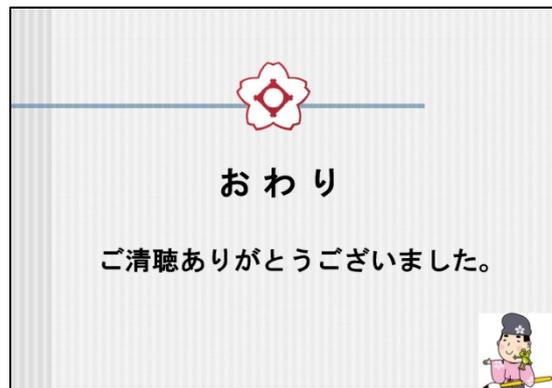
- 空き巣やひったくり、放火などの犯罪が発生
- 犯罪抑止に直結する事業が必要
- 区・町内会・自治会が設置する防犯カメラ事業を支援

【補助対象】
防犯カメラ本体、工事費、調整費、啓発看板等
※維持管理など経常経費(電気代、修理代等)は対象外

【補助金額】
必要経費の2分の1 3年度内で50万円以内

今後の課題

以上、当市の安全対策を紹介させていただきましたが、これらはすべて市民の協力なしには成り立たないものばかりですので、これからも市民と行政が一体となり、このまちをいま以上に安全で暮らしやすいまちにしていかなければならないと考えております。どうもご清聴ありがとうございました。



質疑応答

●質問 ボニターということで、ボランティア養成について独自の取組みをされているということで興味深く聞かせていただきました。

その中で、アカデミーの教養について、その課程や計画が行政単独で行われているのか。またその教養に関してはどのような方が実施されているのか。その際にはどのようなご苦勞があったのか。いまの段階でお分かりになればお答えいただければとありがたいと思います。よろしく願いいたします。

○回答 安全アカデミーは防災と防犯の2つのコースに分かれていて、それぞれ7講座ずつ持っています。その教授には、18年ぐらい前、著名な先生がほかの先生を募ってくれました。本当にテレビで皆さんがご覧になるような著名な先生ばかりですので、これは春日井市民のモチベーションを上げるのに非常に有効な手段となっています。

このアカデミーが発足した当時は、やはり市の力だけでは当然できないことが多くて、1人の先生をまず選んで、その先生のご尽力によって、その先生のネットワークでほかの先生にお声掛けいただきました。そうすると皆さん快く承知していただきまして、それが営々と今日に引き継がれているということだと思います。

●質問 ボニターについて、一定程度の講習を修了なさった方々に防犯活動に参加していただいているということでした。防犯活動に際して、知識を得た上で活動に参加することによる効果はいかがですか。

○回答 ボニターさんたちは自分たちで企画・立案して各地で防犯活動を行っている。人に防犯・防災を伝える際には専門知識が必要となりますので、アカデミーで得た知識を彼らは有効に活用しておられます。何度でも受講し直して最新の情報を身に付け、それを使って活動することにより自信を持った活動につながります。市民の側もあの人にはボニターだから知識を持っているということを理解していますので、市民のほうでも理解しやすいということです。